

人生ジャーナル

中外日報大衆版 2月号 第423号

兵庫県南部地震の被災地を真心の救済活動で激励

社員らの真心に心和む被災者

総合サービス産業の先駆・(株)ダスキンの避難所を巡回して洗濯の奉仕や自社商品無料提供

総合サービス産業のパイオニア・(株)ダスキン（千葉弘二社長、大阪府吹田市豊津町）は、この度の兵庫県南部地震で避難生活を余儀なくされた人たちに下着類の洗濯をはじめ、自社商品のミスタードーナツなどの飲食物を無料提供して激励した。

同社では本社ビルの一部破損やダスキン誠心館の土壁が剥がれ落ちるなど、かなりの被害を受けたが、地震発生当日の一月十七日、直ちに千葉社長を本部長とする緊急対策本部を設置。情報の収集と復旧作業など、組織的な救援活動にいち早く取り掛かった。

まず、西宮市のダスキン青木支店を拠点に、社員がオートバイや自転車で救援物資を被災した各加盟店などに運搬。また、同支店ではミスタードーナツを一日に五千個のほか、うどん、スープ、毛布、下着類などを周辺の被災者に提供。さらに社員は炊き出し、被災家屋の清掃などに没頭した。社員は現在も全国の加盟店などから駆けつけた人たちと救援活動を行なっている。

一方、社員たちはトラックで西宮市内にある小中学校など二十九カ所の避難所を一日おきに巡回し、洗濯物を集荷。この洗濯物を家族単位で網の袋に入れ、ダスキン商品の洗濯を行なっている大阪府内の四つの協栄工場で洗濯。洗濯が終わるとこれを乾燥させ、翌日に避難所まで届けるという活動を繰り返している。

これはダスキンならではの救援活動であり、被災地の人たちにたいへん喜ばれている。同社では可能な限り、この活動を続けていくという。

同社では、兵庫県の売り上げは全体の二％程度だが、売上金額では八十数億円にも上る。現在、兵庫県内に三十店舗あるミスタードーナツ店のうち、十八店が閉店している。

この度の地震で、一般企業も未曾有の大損害を蒙ったが、各企業とも会社再建に向けスタートを切った。

ダスキンも社員と加盟店などが一丸となって今度の災害を乗り越え、さらに大きく飛躍発展していくに違いない。

ダスキン青木支店から救援物資を積んだオートバイ部隊が出動する【写真は省略】

ミスタードーナツ五千個が被害者に無料で提供された【写真は省略】

子供たちに笑みがこぼれる【写真は省略】

被災者でござったがえすダスキン青木支店【写真は省略】